

EIWA UNIVERSE

発行日 2017年7月28日 第16号

ハイライト:

- 「国際交流フェア2017in英和」に約80名が来学(1P)
- 使用済みインクカートリッジの回収を始めました(3P)
- 地域との連携事業が次々と実施(4P)
- 相談事は何でも学務課へ(5P)

目次:

学長言	2
宗教委員会	3
ボランティアセンター	3
学科NEWS	4
研究室探訪	6
学務課・学部事務室 連携課	7
キャリア支援課 後援会	8

「国際交流フェア2017 in英和」を開催

本学の留学生と地域の日本人の方々の交流を深める目的で、本学では、毎年、各国の伝統芸能や文化を紹介する「国際交流フェア」を開催しています。去る1月14日(土)に開催しました「国際交流フェア2017 in英和」には、これまでで最も多い約80名の方々が来場されました。

学長からの挨拶の後、各国の留学生から母国文化にまつわるクイズやジャンケンゲームなどが紹介されました。来場者と母国語で行ったジャンケンキングというゲームでは、会場は大いに盛り上がりました。

また、中国人留学生の許玲妮(シーリンニ)さん(人間社会学科 2年)による二胡の演奏が披露されました。その優雅かつ哀愁のある音色で奏でられた映画「神話」の主題歌と、二胡の代表曲とも言われる「戦馬奔騰」の演奏には、誰もが引き込まれました。

続いて藤本流清風会様から日本の伝統芸能の三味線による演奏を4曲披露していただいた他、日本舞踊 大河流寛叟会の皆様による華麗な舞が

披露されました。最後に留学生たちもステージに上がり、美しい着物姿で日本舞踊を2曲舞いました。留学生たちは授業の空き時間を利用して寛叟先生の熱血指導(!)をいただき、一つ一つの動きを身に付けるまでになっていました。初心者とは思えない程の美しい舞に、来場者から賞賛の声をいただきました。

来場者からは、「日本の文化に興味を持っている留学生は多いことが分かりました」、「こういう交流の機会はめったにないので嬉しい!他国の文化

を知る機会になった」等々、嬉しいコメントを多数いただきました。

イベント開催にあたって、ご協力いただいたすべての方々へ深く御礼を申し上げます。

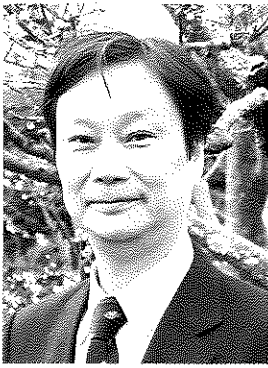
本学の「国際交流フェア」が、地域の人々にますます愛されるイベントになるよう今後も、努力してまいります。

(留学生センター 鈴木)



二胡の演奏





柴田敏
(しばたさとし)
学長

リスクを乗り越
える勇氣
そのリスクの先
に・・・

かんが リスクについて考えてみましょう

人が生きて以上、誰にでも、いつでもリスクはあります。

リスクとは、危険性、危険が生起する確率ということです。道を歩いても、建物の中にも、「何が起るかわからない」というリスクは、常にあります。

しかし、私たちは通常、そんなことは気にしていません。気にしだしたら、何もできなくなってしまうからです。外に出たら、交通事故に遭うかもしれない。しかし、家にいても、近所で火事が起るかもしれません。そこまでは気にしてもしようがない。それよりも、休日には街に出たり、里山へ出かけたりして、楽しむ方がよいのです。

しかし、もっとリスクを気にした方がよい時もあります。歩きスマホもそうですが、自動車や自転車を運転しながらスマホを使うのは、大きなリスクを伴う行為です。自分だけでなく、他人に大きなケガをさせたり、最悪の場合、他人の命を奪うリスクがあります。

よく考えれば、誰もそのようなリスクを冒したくはないはず。それなのに、「大丈夫、大丈夫」という根拠のない判断をして、半ば無自覚に、リスクを冒しているのです。

一方で、リスクを冒すべきかどうか、迷うこともあるでしょう。遮断機が下りた鉄道の踏切の中で、倒れている人がいる。駆け寄って、助け出してあげた方がいいのか。しかし、自分も死んでしまうかもしれない。助けに行くのは、かなり大きなリスクを伴う行為です。

この場合には、踏切の「非常ボタン」を押すというのが、最善の選択です。思い切って押してください。

ここまで極端でなくても、人を助けることには、リスクがつきまといきます。

時間が取られる、お金がかかる、傍観者ではなくて当事者になってしまうというようなリスク。その先には、さら

に大きなリスクが隠れているかもしれません。

聖書に、「善いサマリア人のたとえ」があります。「ルカによる福音書」10章25～37節にあります。本学でなら、「もう知っている」という人が多いでしょう。

エルサレムからエリコへ下っていく途中で追いはぎに襲われ、暴行を受けた人を、通りがかりの祭司とレビ人は、助けませんでした。彼らは、助けることのリスクを重視したのです。

しかし、サマリア人は、そうではなかった。応急手当をして、宿屋まで連れていき、一晩一緒にいて介抱した後、宿屋に余分のお金を払って、後々の面倒を見るよう頼んでいるのです。このたどの中で、サマリア人は、追いはぎに襲われた人の隣人になりました。

何か行動を起こそうとすると、リスクが伴います。しかしだからといって、まったくリスクを取らない人生は、自分勝手な人生になってしまいます。自分のためだけの人生になるのです。

善意のつもりが、大きなトラブルに巻き込まれることもあります。だから、ほんの何気ない人助けも、ためらってしまうことがあります。

しかし主イエスは、それでも隣人を愛しなさい、と言われます。

電車やバスの中で、席を譲るというよなほんの小さな親切が、「めんどくさい」と思われるのは、何らかのリスクを感じているからです。でも、そこにほんの小さな勇気があれば、そのリスクを乗り越えるつもりになれば、隣人を愛する行為につながっていくのです。

そのリスクの先に、それ以上の恵みがあるかもしれない。

そして、主イエスは、リスクを負うあなたを支えてくださるのです。

「共に喜べ」静岡英和の輪！

今年には静岡英和が創立から130年となり、長い歴史に誇りをもちつつ、また新たに歩み始めようとする記念すべき年です。さて、今年も開学以来行われてきたリトリートを天城山荘にて一泊二日の日程（短大4/15・16、大学4/16・17）で行いました。乗車時間三時間のバスから降りると満開の桜がお出迎え！豊かな自然に包まれた山荘は、不安と期待ももっていた新一年生にとって心癒される場所であったのではないかと思います。今年の宗教の目標は「共に喜べ」で、リトリートの主題も「共に喜ぶ」としました。聖書は「頑張れ」ではなく、「喜べ」と私たちに語っています。そういう喜びを分かち合う輪が静岡英和全体にどんどん広がっていったら、どんなに嬉しいことかと思えます。今年の新一年生は短大、大学共にさまざまな宗教的背景の留学生がおり、食事の面で少し工夫が必要でしたが、静岡英和がキリスト教主義の大学であることを理解しようとしている学生達の真摯な姿に、逆にこちらが教えられる思いでした。リトリートは天城山荘の厳

かな雰囲気の大チャペルで、礼拝で始まり礼拝で終わるというキリスト教に基づく行事ですが、学生ひとりひとりにとっての一番の収穫は友達が出来、大学生活に大きな期待がもてるようになったことのようにです。引率上級生達はもししたら一年生が大学生活に馴れるか、春休み中に集まって検討し、準備してくれました。一年生達はそんな上級生に憧れと信頼をもったようです。キャンドルサービスでは、それぞれがキャンドルの光のもとこれまでのこと、そしてこれからのことに思いを巡らせました。2日目、天城山荘を後にして、伊豆シャボテン公園にて焼き肉を食べたり、カピバラをながめたり、一泊二日のリトリートはよい思い出になったようです。改めて、リトリートに携わってくださった皆さんに感謝しつつ、今年も無事にリトリートを行えたことに感謝。2017年度も学生、教職員が共に喜びを築き上げる静岡英和でありますように祈ります。静岡英和学院の歩みの上に、神様の恵みの中にありますように。アーメン。（宗教 伊勢田）



キャンドルサービス

リトリート

大学生活に大き

な期待！

ボランティアセンターだより

「エコ活動」使用済みインクカートリッジの回収を始めました。

静岡英和学院大学ボランティアセンターでは、ボランティア活動の一環として、リサイクルが出来る使用済みインクカートリッジの回収を始めました。企業や自治体、学校から一般家庭まで、あらゆる場所で使用されているインクカートリッジは、日本で年間約1億2000万個となっています。しかし使用量のうちの5000万個以上は廃棄処分されてしまっているのが現状です。家電量販店やホームセンターなどで見かける回収ボックスだけでは足りず、より多くの場所、一般家庭から身近な場所で回収運動をする事が有効となってきます。回収して集めたインクカートリッジは山梨にある“ジット株式会社”へ送られます。

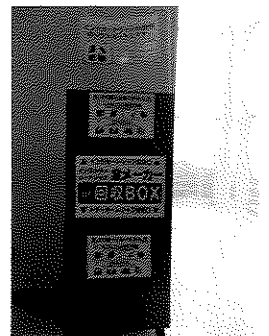
ここでポイントとなるのがリサイクルされる前の選別作業です。リサイクル出



来るものとそうでないものの仕分け作業は“NPO法人 ジット会たいよう”で行われ、ハンディキャップを持った方の仕事となります。集まるインクカートリッジの回収量が多ければ多いほど、仕事が増え雇用にも繋がっていくのです。また仕分け後のインクカートリッジで使用出来るものはリサイクル商品として蘇ります。使用出来ないインクカートリッジも、ゴミにはせず別資源として細かく粉碎されペレット化し最終的には車止めやリサイクルパレットとして有効活用をしています。

ボランティアセンター前に青色の回収ボックスが設置してあります。資源の有効活用はもとよりハンディキャップを持った方々の為にも、ぜひインクカートリッジ回収にご協力をお願い致します。

（ボランティアセンター 橋本）



人間社会学科

インターネットの世界的普及とスマートフォン利用拡大により、地球規模でのグローバル化の流れが進んでいます。同時に、それぞれの地域での特色を活かした活動も見直され、「グローバル」(globalization)と「ローカル」(localization)を組み合わせた「グローカル」(glocalization)な着眼点への注目も高まりつつあります。「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する」(Think globally, act locally.)ことは時代の要請であり、その重要性は今後ますます増していくものと考えられます。

人間社会学科では、これまでも地域と

連携した活動を進めてまいりましたが、今年度よりより一層の地域貢献を目指した教育プログラムを整えました。その一つとして、まちづくり団体「I Love しずおか協議会」および静岡大学と提携し、静岡市中心市街地の活性化を目指した取り組みを進めています。この取り組みに学生が積極的に参加することによって、経験を深めるとともにグローカルな素養も鍛えられ、社会をリードする人材に育っていくことを願っています。今後の進展にご期待ください。

(人間社会 毛利)



「連携及び協力に関する協定書
密附講座に関する覚書」締結式

地域連携型の
教育プログラムに関する
協定と覚書の締結式
(2017年6月2日午後、
静岡商工会議所会館にて)

コミュニティ福祉学科

7年目の『はびねす☆EIWAカレッジ』

地域社会で暮らす主に知的に障がいをお持ちの方を対象とした生涯学習講座『はびねす☆EIWAカレッジ』がスタートして早いもので7年目となりました。これまでに多くの障がいをお持ちの方が『はびねす☆EIWAカレッジ』に参加されました。昨年度を振り返って、特に毎年継続的に参加されている方は、日々の労働や生活で抱いた喜び、辛さ、悲しさといった思いを自らの言葉でより豊かに、より深く話していただけるようになったのではと感じます。学びを通して、人生を豊かに深めていく支援をしたい、『はびね

す☆EIWAカレッジ』を支える教員、学生の願いはいつも同じです。今年度の『はびねす☆EIWAカレッジ』は7月1日、10月14日、2月24日の3回、すべて土曜日13時から大学構内にて開催されます。是非お気軽に足をお運びください。(コミ福高阪)



継続する

社会貢献活動と

学生の学び

子育てぱぱママ広場みんなであちよぼ

『子育てぱぱママ広場みんなであちよぼ』は7年目を迎えました。2013年度には本学学生に、静岡県こども未来局から、8月27日「ふじのくに」子ども・子育て応援県民会議」県若者代表として発足宣言を依頼されました。2014年度には県予算「静岡県だからこそ産み育てたい」調査研究で、上質の県内杉の木を用いて玩具を作りました。玩具の底に『あちよぼ』の焼印を押したその玩具は、現在、県庁内託児施設で活用されています。

『子育てぱぱママ広場みんなであちよぼ』の人気は折り紙付きで、2015年度に

は「“ふじのくに”子ども・子育てフェスティバル」わくわく部門賞、2016年度には「“ふじのくに”子ども・子育てフェスティバル」地域部門賞を受賞されました。本学の子育て支援の取り組みは静岡県を代表するものとなっています。しかしながら、楽しんで保育実践を行う学生の姿は、誰にも認められることよりも学生自身の学びたい意欲の表れであると思っています。

今年度の新しい取り組みとして、静岡財務事務所とのコラボも実現しました。(コミ福 永田)



あちよぼの様子

現代コミュニケーション学科

2007年度より導入したユニット制も今年度で11年目に入りました。時代のニーズに合わせて柔軟に対応できる制度として出発しましたが、実際に種々改善を重ねてきました。今年度も、メディカルクラークユニットに「ホスピタルコンシェルジュ」の講義を新設しました。同名の資格に対応した講義であり、この資格は、患者さんへの接遇力を評価認定するものです。資格の内容は、医療関係機関はもちろんのこと、他の仕事においても応用できるものを有しています。昨年度の学科会において、いくつかの資格や検定について調査研究し、討議を重ねて導入したものです。

なお、今年度は、久しぶりに時間割もかなり見直しを行い、さらに履修しやすいように配慮いたしました。

一方、有意義なものに関しては、内容の改善を重ねつつ、継続しているものも少なくありません。特に、地域連携の分

野で、春の焼津港まつりへの協力と、秋の「しんきんビジネスマッチング」への参加は、回を重ねてきました。

4月9日（日）に行われた焼津港まつりは、天候が心配されましたが、雨はほとんど降らず、安ゼミの学生が活発にお客様にはたらきかけ、予定していた観光アンケートは想定していたより早い時間に収集し終わりました。ご指導いただいた焼津信用金庫様からも喜んでいただきました。



しんきん
ビジネスマッチングの様子

しんきんビジネスマッチングは、昨年10月12日（水）に参加して好評を得ましたが、今年度も10月11日（水）に参加することが決まっています。

研修内容もいっそう充実して臨むことにしています。（現コミ 高橋）

次々と

実施される

地域と連携した

様々な事業

食物学科

今年度は、食物学科に彭 徳子（べん のりこ）先生が加わりました。ご専門は微生物・免疫学で、食品衛生学分野をご担当されます。これにより、食物学科の女性教員比率は88.9%となりました。

次に、年度末に嬉しいニュースが続きましたことをご報告します。まず、フードスペシャリスト資格認定試験において、受験者全員が合格しました。また、すべての学生の職が決まり、学び舎を巣立っていくことができました（就職率100%）。今後もこのような成果を一つひとつ積み上げ、食物学科の強みにして参ります。



茶農家さんに呈茶を教わる学生

さて、本学科では、梅ヶ島学区自治会連合会および近隣大学と連携し、食のプロジェクト「食でリフレッシュ！ in 梅ヶ島」を5年間開催してきました。昨年度は、「公開座談会」を栄養士養成施設協会および本学教育改革推進事業の助成を受けて、梅ヶ島温泉「清香旅館」様にて実施しました。当初より本プロジェクトに関わってきた、懐石・宿 近又総料理長 鶴飼治二氏を講師としてお迎えし基調講演を行なった後、総勢40数名による座談会を開催しました。プロジェクトを通して顔馴染みになった旅館の女将さんや農家さん、オクシズの道の駅関係者、本学からは、学長をはじめ、学生、教員、卒業生が参加して、活発な意見交換がなされました。現在、座談会の内容を編集し、冊子を作成しています。

食物学科一同、今年度も教育・研究・学生募集に力を注いで参ります。皆様何卒よろしくお願いいたします。

（食物 前田）



オクシズの恵み

研究室探訪

佐々 壽浩

(さっさ としひろ)

所属:食物学科

専攻分野:

生化学

研究テーマ:

線虫を用いた感覚受容の分子機構と栄養素代謝産物の生体機能への影響



想像もしない

多くの知識を

学ぶ学科

私は生化学が専門であり、生体の機能を分子レベルで明らかにすることを目指して研究を行なっています。線虫というモデル生物を使って、遺伝子操作や行動解析を行なってきたり、これまでの結果を含めて、お話したいと思います。

線虫は体長が1mmと小さく、顕微鏡で観察して行動を調べます。寿命が20日であり、多くの遺伝子異常の変異体が単離されており、また遺伝子操作（遺伝子導入やRNA干渉法での遺伝子ノックダウン等）が可能であるため、生体機能制御に関わる遺伝子が同定できます。線虫は匂いの嗜好性や忌避的環境を感知して行動します。線虫が匂いを識別する能力を持つことから、癌の診断への応用（九州大）という報道を知っている人も多いでしょう。

私は、線虫が高アルカリpHを忌避する行動を調べて、感覚神経の細胞膜に存在するチャンネル蛋白質（osm-9）が受容分子であることを見つけました。この分子は、人でも痛いとか熱いという感覚受容に関わっている分子（TRPチャンネル）ですので、人とかけ離れた生物である線虫での生体分子の同定が、人の生体機能の解析に役立つことを意味しています。線虫は寒天培地上で生育するため、様々な薬剤や栄養状態での寿命や生理機能への影響を調べることができます。私は食物学科に在籍していることから、食品中の栄養素や代謝産物の生理機能への有効性を調べることに興味を持っています。線虫は最初に寿命遺伝子（age-1）が同定された生物であり、カロリー制限で寿命を延ばすことができ、ブドウ糖が存在する

培地で生育させると短命になりますし、脂肪を貯蔵することから肥満のモデルになり、制御分子が既に同定されています。私は、人では絶食時に産生されるケトン体や栄養素の代謝産物による寿命や生体機能への影響を調べる事を計画しており、新規な知見が得られると期待しています。

地域貢献について:

本学は、2015年度の産官学交流会に参加し、私は『モデル生物「線虫」を用いた栄養学へのアプローチ』と題して講演しました。静岡市との連携を強化する目的で毎年公開講座が開催されており、2016年度の公開講座で、私は『高齢期の運動と地域とのつながり』と題して講義しました。また、科学館る・く・るでの「青少年のための科学の祭典」静岡大会（2014~16年）に出展し、学生と一緒に科学の面白さを伝える活動を行いました。

担任学生から:

食物学科は、クラス担任制で先生との距離が近く、科学実験や調理実習を通じて仲間と協力する機会がとても多いです。実験ではレポート作成の基本を学びます。授業では栄養士資格取得の科目を中心に食の知識を学ぶことができ、また静岡大農学部との単位互換科目では農場での体験型実習があり、入学当初には想像もしていなかった多くの食に関わる知識を学べて良かったです。



文責（2017年3月卒現・人間社会学科3年
山崎千嘉 現・コミュニティ福祉学科3年
石川ひかり）

学務課

なんでも相談してください

学務課では、学生の皆さんがよりよい学生生活を送るための支援業務を担当しています。

たとえば、授業料の分割・延納・減免、各種奨学金の紹介と応募手続き、課外活動支援（学友会・各種サークル）、通学手段の整備・改善、マナー向上指導、学生食堂の管理、調査・統計（卒業生アンケート等の実施）等々があります。授業に関すること以外の日常の学生生活に関しての相談については、私たち学務課が、まずお話を聞きます。当課だけで対応が難しい問題の場合は、他の部署または先生方とも相談の上、解決していきますので、学内で困っていること、改善してほしいこと等がありましたら遠慮なく立ち寄ってください。また、直接の相談方法以外には学生課のある新館2階フロアに『提案箱』がありますので、備え付けの指定用紙に要望・意見を記入の上、投函してください。定期的に回収し、寄せられた要望等に対して回答し、これを公表します。ただし、学籍番号、氏名等の記名がない場合にはお答えしないルールとしていますので、投函の際には記名をお願いします。なお、図書館内、学生食堂にも同様に意見箱が設置されています。

今後も学生生活の向上に向け学生の皆さんと意見交換を続けていきたいと考えていますので、「よろず相談室」の学務課を、どうぞ活用してください。

（学務課 山木）

学部事務室

昨年度までは学務課が教務系の業務も担当していましたが、2017年4月より教務系の業務担当は独立し「学部事務室」という部署ができました。場所は新館2階の事務室で変わりありませんが、今後、掲示物等では「学部事務室」という名称を多く目にすると思います。学部事務室＝教務系と覚えて頂ければと思います。

さて、今回は「学生による授業改善のためのアンケート」についてお話ししたいと思います。このアンケートは、各授業をより良いものにするため、学生の皆さんの意見と授業に対する関心や現状を把握する目的で毎年前後期に1回ずつ実施しています。毎回、先生方は皆さんからの意見等を確認し、授業の改善に取り組んでおられます。

このアンケート結果は、先生方だけでなく学生の皆様にも公開しています。アンケート結果には授業の受けた方の様々な意見が集約されています。シラバスだけではわからないような各授業の魅力を知ることができる資料ですので、学生の皆さんにも活用してもらえればと思います。アンケートは、図書館と学部事務室で閲覧ができますので、職員まで気軽にお声かけください。

なお、今年度1回目のアンケートは7月に実施しますので、回答のご協力をお願い致します。

（学部事務室 鈴木）

連携課

6/8本学にて「東洋英和女学院大学」、「山梨英和大学」、「静岡英和学院大学」の3英和大学での包括連携協定が締結されました。3つの英和大学の開学のルーツはカナダメソジスト教会を中心に共通しており、様々な先進的取り組みを実施することが期待されます。

6/2には静岡の「おまち」の活性化を図る「I loveしずおか協議会」との連携及び協力に関する協定が締結されました。この協定に基づき地域活性化事業が展開されます。同協定は今後静岡大学とも取り交わす予定です。

（連携課 高橋）

よろず相談室の

学務課

教務系の

学部事務室



3英和大学の
包括連携協定締結式

キャリア支援課

皆さん！こんにちは。2017年度 私たちが皆さんを支援します！

キャリア支援課は、全学科・全学年の皆さんに、ご利用いただけます。資格取得、インターンシップ、各種講座開催、就活の進め方、電話の掛け方、メールの送り方、書類の書き方・添削、面接練習、etc・・・新卒応援ハローワークとも協力して、在学生・卒業生（卒業後3年間）の皆さんのキャリア支援・就職支援を行っています。



課長 鷲山 松本 小田 岩品

キャリア支援課長の鷲山(ワシマ)です。Welcome 留学生！留学生の皆さんを担当しています。昨年度の留学生の就職率は100%！企業と留学生の架け橋として、より良いマッチングを行っていきます。

松本(マツモト)です。年の功と企業での経験を生かして、どんな質問にもお答えします。安心して就活準備、就活を行ってください。いつでも寄り添い支えます！

小田(オダ)です。31歳、O型。体形も割とO型です。求人(毎週火曜日)や学内企業説明会、インターンシップ情報などメールを配信しています。チェックをしてみてください！

今年の4月入職の岩品(イワシマ)です。先輩方に教えていただきながら日々勉強です。皆さんのお兄さん的な存在として一生懸命頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

～保護者の皆さまへ～

9月2日(土) 10:00~12:30 2017年度第1回「保護者ができる就職支援セミナー」を開催いたしますのでご出席ください。7月中にご案内をお送りいたします。

(キャリア支援課 松本)



静岡英和学院大学
静岡英和学院大学短期大学部
〒422-8545
静岡市駿河区池田1769
TEL054(261)9201
FAX054(263)4763

企画・編集

学報委員会

後援会だより

日頃より、保護者の皆様には大学後援会の活動に御理解・御協力を賜り感謝申し上げます。今回は昨年度の後援会事業について御紹介致します。

大学・短大の発展に寄与する事業として、昨年8月18日に県内の高校生や本学在学生を対象に、「開学50周年記念事業 EIWA SUMMER NICE DAY」と題し、新館講堂にて人気シンガー・ソングライターのMACOさんによるスペシャルライブとトークショーを開催し、高校生を始めとして300名近くの参加がありました。

その他、コンビニラウンジのテーブル・椅子の新調、学内緑地管理の助成、防災備蓄品(カ

ンパン等)の整備助成、学生食堂の食材費補助なども行いました。

今年度も、快適で安全な学生生活を送れるようサポートして参ります。

(総務課 小林)

50th Anniversary 50th Anniversary
EIWA SUMMER NICE DAY
Special Guest MACO
2014 8.18 (Thu) 参加無料
静岡英和学院大学
静岡英和学院大学短期大学部 おかげさまで50年
高校生限定 WEBにて参加予約受付中! www.shizuoka-eiwa.ac.jp